



令和5年7月12日(水)宮藤先生の中学時代の同級生にオンラインでロサンゼルスから登場してもらいました。

講師自己紹介

香坂さゆりと申します。中学・高校・大学とずっと陸上競技を続けてきました。大学卒業前後に、たくさんの国々を旅行しました。アジア、ヨーロッパ、アメリカ合衆国の各地です。

日本の企業に就職しましたが、専門職に就いて、世界を舞台に働きたいという夢をかなえるため、アメリカ合衆国に渡りました。そして、選ん



だ職業が旅客機のパイロットだったのです。今、その資格を取るために一生懸命勉強しています。

なぜ、アメリカなの?

英語を上達させたかったからです。パイロットと管制官、パイロット同士のやり取りは世界中どこでもすべて英語なのです。

アメリカから飛行機の歴史が始まりました。国土も広いし、非常にたくさんの航路があります。航空産業が最も進歩している国なのです。そんな飛行機の本場で学びたかったのです。

英語を学ぶ重要性

①英語は全世界で使われている言語。アメリカに限らずどこの国で働くのにも役立ちます。

②英語が使えると、海外に行かなくても日本にいる外国の方と知り合うことができ、当然人脈も増えてきます。

③日本のメディア以外にも海外のメディアが発信する情報を手に入れることができます。つまり、英語ができれば、**自分の未来についての選択肢を増やす**ことができるのです。

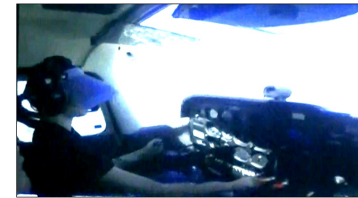
これから大人になっていくと、行き詰まることになります。そんな時に他の選択肢があれば、新しい道にチャレンジしていけるのです。

パイロットになるために

パイロットって、幅広い知識を持っておかなければなりません。例えば、天気のこと、航空力学(なんで、飛行機は飛ぶのか)、法律(やっていいことと悪いこと)、航空免

許もたくさんあり、取り続けていかないと、お客様を乗せて飛ぶことはできません。雲の中を飛ぶ免許だってあるのです。

実際、私が訓練を受けているところの動画をお見せします。大きなサンバイザーをかぶり、飛行機の窓から外を見ないようにして、計器と管制官からの指示だけで飛ぶ訓練です。(写真↓)管制官の英語が速すぎて聞き取れず、繰り返し言ってもらったこともありました。



操縦できるのは何時間までですか?

参加者からの質問
操縦って、同時に様々なこと(計器を読む、管制官と交信する、状況を見て飛び方を考える等々)をするので、疲れて判断能力が低下してきます。教官として操縦するときには8時間が限度なのです。

予期せぬことを予期する

例えば、搭乗者に緊急事態が起きて、すぐに着陸しなければならなくなることがあります。



直近の飛行場の場所を調べて、管制塔と連絡を取り合いながら緊急着陸をしました。「予期せぬことを予期する」のがパイロットなのです。

他にも、グランドキャニオンやサンフランシスコの上空を飛んだ時の動画など、沢山の写真や動画を見せてくれました。J-Trial動画報告を期待してください!

そして、さゆりさんにお別れをした後、お礼状を書きました。

お礼状

今回のお話を聞いて英語の大切さやパイロットの仕事などについて知ることができました。海外には日本にない物がたくさんあることが分かり、海外について興味を持ちました。いつか海外に行ってみたいと思いました。有難うございました。